

## &lt;全体分析&gt;

試験時間

75分

## 解答形式

記述・論述・計算・描図・選択

## 分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

昨年より解答時間が60分から75分に増加した。大問数は昨年と同じであったが、論述問題が増加した。

## その他トピックス

広島県の過去の災害を題材に多分野にまたがる出題がされた。

計算問題で、昨年と同じ公式を用いる問題が出題された。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[Ⅰ]	選択 記述 論述	プレート	地学	海洋プレートと大陸プレートの形成と特徴、大陸移動説の理論について、地球の表層の高度分布とアイソスタシーの関係が問われた。	標準
[Ⅱ]	選択 記述 論述	広島県の災害をテーマにした分野横断問題	地学基礎 地学	広島県の過去の豪雨災害を題材に、鉱物の構造、地質時代、線状降水帯のメカニズム、広島市の地形が問われた。日頃から、ニュースに注意しておきたい。	標準
[Ⅲ]	記述 論述 選択	地球の内部構造	地学基礎 地学	地球の内部構造について、各層の特徴、地震波との関係、マントル対流についての仕組みなどが問われた。基本的な内容であったが、文章力が必要。	やや難
[Ⅳ]	記述 論述 計算	恒星	地学基礎 地学	恒星の進化に関する基本問題と、明るさと距離の関係、シュテファンボルツマンの法則を用いた計算が出題された。計算問題は、公式を与えられていたので解きやすかった。	やや易
[Ⅴ]	論述	地球の形 地震災害 深層循環 ベータダブルーン 銀河系の運動	地学基礎 地学	五つの語句群の中から二つを選択し、与えられた語を用いて、地学的に意味のある文章を作成する問題であった。与えられた語から文のテーマを決定し、適切な語句を加えながら地学的な内容の文章にまとめる必要があった。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

広島大学の前期試験では、例年、地学基礎と地学のほぼ全分野から、記述、論述、計算、描図など多様な形式で出題される。今年は、昨年よりも解答時間が増加し、大問中に、地学現象や用語についての説明を求める論述問題が増加した。各分野の地学現象とそのしくみを理解し、自分の言葉で説明できるように練習しておく必要がある。

例年、計算問題が数題出題されている。計算に用いる公式や定理を理解し、過去問や教科書の例題を利用して、類似する問題に取り組んで慣れておきたい。

今回は出題されなかったが、地質図を用いた問題や描図問題も出題される可能性が高いので、過去問などを用いて演習をしておこう。